

NPO法人 日本ハンザキ研究所 が進める環境教育の実践

田口勇輝・栃本武良（特定非営利活動法人 日本ハンザキ研究所）

はじめに

日本ハンザキ研究所は、1) オオサンショウウオをはじめ、自然環境等の保全及び復元に係る調査・研究並びに技術開発、2) 学外学習や生涯学習などの支援や人材育成、3) 自然環境等の情報の収集と発信及び啓発に係る事業、4) 同様な目的を持つ研究者や行政・民間などとの交流事業、を活動目的とし2008年8月に特定非営利活動法人として発足しました。朝来市生野町に残されていた廃校を活用し、ここを活動拠点にしています。今回の発表では、ハンザキ研が推し進めている環境教育の実践を、いくつか紹介いたします。なお、“ハンザキ”とは、“オオサンショウウオ”の昔の標準語です。



オオサンショウウオなど地域における自然の調査と観察会

ハンザキ研の前には清らかな市川が流れ、周りには豊かな自然が残されています。市川では、1975年から栃本をはじめ姫路市立水族館がハンザキの調査を継続的に行ってきました。既に約1500個体を写真識別し、うち約800個体にはマイクロチップによる識別が行われています。これらの調査を通じて、これまでハンザキの不思議な生態をいろいろと明らかにしてきましたが、まだまだ未知な生態も多いために、鋭意、調査を継続しています。一方で、これらの調査結果を市民へ還元するため、ハンザキに留まらず、モリアオガエル等の観察会、周囲の山におけるハイキング等を企画して、自然を肌で感じてもらえる活動を行っています。



学生たちへの自然体験の場

上記の活動に関連してハンザキ研では、特に小学生からまでの学生たち大学生・一般（親子づれ）の方々へ、自然体験の場を提供しています。ハンザキ研から市川へは階段を設置し、校内から川岸へ簡単にアクセスできるようにしました。校外学習としてハンザキ研に来てくれた子どもたちには、川で魚や水生昆虫を捕まえたり、水遊びをしてもらいながら、自然の面白さを体感してもらっています。また、河川工事のため一時的に保護しているハンザキを間近で観察してもらったり、所内に展示してある様々な資料やハンザキグッズを見てもらいながら、ハンザキの生態や河川環境



の人工化による環境問題、また保全事例などを学習してもらってあります。廃校を利用しているということもあり、講義を行うスペースも充分にあります。さらに、ハンザキ研の周囲に残されている自然を利用して、季節に応じた様々な観察会（春：山野草、夏：水辺の生き物orきのこ、秋：紅葉狩り、冬：野鳥）を企画しています。



地元イベントでのプチ出前授業

地元の黒川や生野では、地域興しのイベントが年にいくつも行われています。地域には豊かな自然が残っている一方で、高齢化が大きな課題でもあります。これらのイベントで地域の良さをアピールするために、ハンザキの生態や保全事例をまとめたパネルを出展して、訪れた人々にプチ出前授業を行っています。話を聞いてくれた方たちの中には、是非また子どもたちを連れて訪れたい！とおっしゃって下さる方も沢山おられ、嬉しい限りです。



まとめ

地域の豊かな自然資源をいかに活用していくか、そのためにはまず地域の自然をよりよく知ることが大切です。ハンザキ研では、自然観察・調査研究を行い、その成果を多くの方たちにダイジェスト版で体験していただく多数の機会を設けています。今回のパネル発表も、日本ハンザキ研究所が進める環境教育の実践の一例と言えます。パネルでは写真をたくさん使って、様々な活動の様子やハンザキ研周辺の自然をご紹介します。それらをご覧いただくと、きっとあなたもハンザキ研へ、生野・黒川地域へ訪れたいと思うことでしょう。そして、ぜひ一度、わたしたちのフィールドへ足を踏み入れていただけると幸いです。



《NPO法人 日本ハンザキ研究所》

住所 〒679-3341

兵庫県朝来市生野町黒川292

電話・FAX 079-679-2939

E-mail info@hanzaki.net

ホームページ URL <http://www.hanzaki.net>